

# 幸せの国・ブータンの メリーポピーたち

4

花を求めてブータン紀行



メコノプシス・シヌアータ

松永秀和



スノーマントレックの東口にあたるブムタン県は歴史ある土地だ。最初に仏教が布教された地であり、1907年に現ワーンチエク王朝が創立された場所でもある。谷は広く、平坦地が多いものの、2500m以上の高地にあるため、米作ができず、ブータンでも2番目に貧しい県であった。しかし、1980年代にジャガイモが導入されると、気候とも合い、大量に栽培されるようになる。多くはインドへ輸出され、現金収入で潤い、今や有数の富裕県となつた（ブータンの農産物輸出は電力に次ぐ2位）。キキ・ラ（峠）を越えてブムタン谷に入ると、道の両側には青々としたジャガイモ畑がついている。畑の傍らには棚を組み、上に小屋が建つている。ガイドに尋ねると「夜、野ブタが荒らしに来るのを見張つて追つ払うためだ」という。そして、「ナイト・ハンティングを知つているか」とニヤッと笑つて聞く。ナイト・サファリなら知つているが…すぐに思い浮かばず少し考えて、「そうか。夜這いのことか。若い男女が夜、ここで逢引するんだ」と合点。「今でもやつているのか」と聞くと、そうだと答える。「スマホが普及したおかげで、以前より少なくなつたが、田舎ではほかに娯楽がないからね。結婚していても、MBA（Married But Available）だ」という。家の壁には仏教の4聖獸と並んで屹立した男性のシンボルがリアルに描かれている。性についてはおおらかな国のある。

そのブムタンからスノーマントレックで最初に出会う青いケシがこのメコノプシス・シヌアータ。シヌアータとは「波状」の意味で、葉の縁が波状になつていて、壁に描かれている。性についてはおおらかな国もある。